

三重県鈴鹿市白子方言のアスペクト

佐藤 虎男

I. はじめに

- (1) 調査対象地：鈴鹿市は、津市と四日市市との中間に位置し、東は伊勢湾から西は鈴鹿山麓まで広がる田園都市である。調査対象地の白子は、その鈴鹿市の海岸に臨んだ中心の町で、旧河芸（かわづ）郡白子（しろこ）町の三大字（江島・白子・寺家）の一つである。この三大字は、家並みが海沿いに切れ目なくつながり、かつては学区も一つであって、方言的には一つと見ることができる。農業・漁業・商業、工業、伝統工芸の型紙彫刻などの複合する集落であるが、ホンダ技研や鈴鹿サーキットや新興住宅地の開発などがあって、近鉄白子駅は特急停車駅になっている。
- (2) 調査年月日：1993年10月18日～1994年1月20日
- (3) 話者：久保晴生 大正11年4月1日生（71歳）無職／ 桶谷金哉 大正13年1月3日生（70歳）無職／ 佐藤文子 大正13年1月3日生（70歳）商業／ 樋口範之 昭和49年2月24日生（19歳）学生／ 内田美香 昭和49年1月8日生（20歳）学生 *敬称略。お許しを乞う。
- (4) 調査者・調査場所：佐藤虎男・場所は、高齢者は各話者宅、若年者は大学研究室。
- (5) 調査方法・調査時の状況：調査票に従って調査し、あと録音によって確認した。当地は筆者の郷土語であり、話者はみな知人であるが、それを忘れて一観察者に徹するように努めた。
- (6) 記述凡例：老年層3人の回答を中心にし、若年層のをこれに関係づけて記述する。回答者の説明は（ ）で括る。筆者の記述は、頭に*をつける。文末詞は原則として取り上げない。アクセントは上昇下降を「」で表示する。

II. 調査結果

1. (昔は)よく行ったものだね ①「ヨ^ー「イッ^トタ「モ^ンヤ (若年層では少ない。) / ②「ヨ^ー「イッ^トタ (若年層の第一答。) / △③「ヨ^ー「イキ^トヨ^ッタ (高年層のみ。) *ヨ^ーは必須成分ではないが、それに近いもの。特に②はヨ^ー抜きでは単なる完了の言い方に過ぎなくなる。
2. (あのころは)おもしろかったなあ ①「オモシロ^クカッタ / △②「オモシロ^クカ^リ「ヨ^ッタ (②は今はほとんど言わない。言うにしても80～90歳の古老に限られる。) / △④「オモシロ^クカッタ「モ^ンヤ (若年層ではあまり言わない。) *上記1ではヨ^ッタがあったが、この②形容詞接続では消滅寸前。
3. (もうちょっとで)落ちるところだった ①オチル^ト「コヤ^ッタ。(ふつう「モー^ッ「ト^デが頭につく。) *この時にアスペクトとしてのオチヨ^ッタの言い方はしない。 *若年層二人の「落ちる」のアクセントはオ^チ「ル。
4. (今にも財布が)落ちそうだよ ①オチ^ル / ②オチ^ソ「ヤ / △③オチ^カカッ

ト「ル *「落ちる」と「落ちそう」との違いを時間の前後関係だけで言うことには無理がある。むしろムードの問題で、後者はそのムードが表現形態に明示されているのである。

5. (財布を) 落として ①「オ「トシタ／②オ「トシテシ「モタ *①②は「～て」止め形ではないが、これがまず出る。／△③「オトシテシモテ／④「ナ「クシテ・「ナクシテシ「モテ(若年層。「～しても」は失敗したという意識でいう。)／⑤「オトシテシ「マッテ(若年女性。)
6. 困っている ①「コ「マッタ(これは「ている」形ではない。)／△②コ「マツ「ル／③「コマッテル(若年層。②はほんとうに困惑したときにふさわしい昔からの形であり、③のテル形はメディアの影響による新しい形。)
7. (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだ ①キ「エカカット「ル／②キ「エソ「ーヤ／③ア、「キエル／④ア、「キエルキエル(予想された消える瞬間の直前という切迫感がある。) *この項目でアスペクトとしてのキエヨルは言わない。
8. (今) 消えようとする ①「キエルキエル(これこそこの場面にぴったりだ。)／②「モーキエル「ワ／③ア、「モーキエテシマウ *②③は副詞モー「トル形動詞とによる表現。
9. (完全に) 消えた(瞬間) ①「キエテシ「モタ／②ア、「キ「エタ／△③「ト「ト「キ「エタ／④「モーキ「エタ／⑤ア、「モーキエテシ「マッテ(若年女性) *見ていて消えたという瞬間には②のように言うが、見ずにいてふっと気がついたら消えていたという状態のときには①だという話者の分析は妥当。②③④は要するに「キエタ」になんらかの修飾語が付いて、それぞれのニュアンスの違いを表現しているといえよう。
10. (すでに) 消えていた ①ヤッ「バ「リ「キエトツ「タ *～トツタで安定。キエテタは近い間ではあまり言わないようだ。同じ「ている」のアスペクト形態でありながら、キエテルというル形は言うのに、キエテタというタ形はあまり言わないというのはおもしろいことである。 *キエタアツタは言わない。
11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた ①「キエカ「カッタ／②「キエカ「ケタ(一本の蠟燭の場合にふさわしい言い方。)／③ダン「ダ「ン「キエテク／△④「キエダ「シタ(消えることを予期していた時の言い方。予期していない時には①の方がふさわしいと思う。)／⑤キ「エカカット「ル(これは一本の蠟燭が、風のためにではなく芯がなくなってきて消え始めたときの言い方だ。)／△⑥「キエダシト「ル／△⑦「キエテット「ル *③⑥⑦はル形、その他はタ形。「消え始めた」というタ形の設定でも、ル形の状態化表現をとりうるのである。
12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ ①「キエテク(独り言的。)
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ ①キ「エテク *このような場合、特に

家族のものに対してなら「キエトル」と言わないこともないが、「～ていく」式の言い方になるのが自然である。なお、キエテクルとはまず言わない。

14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ①「キエテシ」モタ／②ミ「ン」ナ「キ」エタ／△③「キエト」ル／④「キエテシマツ」ル (若年女性) *①や②が先に出るところに方言表現らしさがあるともいえようが、③もごく自然である。このときにキエタルとは言わない。
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ ①「シト」ル *安定的な形。
16. (もう全部) 消しているか ①「キエテシモト」ルカ／△②「ケシタ」アルカ (またはケシテアルカ。自分以外のだれかに頼んで消してもらった結果を確かめるときの言い方。)／③「ケシト」ルカ (若女)
17. (今にも桜が) 散りそうだ ①「チリソ」ーヤ／②「チッテ」ク「ル
18. (ちらほらと) 散り始めた ①「チリダ」シタ／②「チッテキ」ダシタ／③「チリハジ」メタ (標準語的。)／△④「チリカ」ケタ／⑤「チッテット」ル／⑥「チッテキ」タ (若女) *⑤は「～ていっておる」形式、⑥は「～てきた」形式で、これでも始動態を表すのである。
19. (今現に) 散っている ①「チット」ル (これしか言いようがない。) *アスペクトとしてのチリヨルは言わない。 *チッテルは余所行きことばの感じ。
20. (桜の木がすっかり) 散っている ①ミ「ン」ナ「チッテシ」モタ／△②「チッテシモト」ル (言えば言えるが、どちらかといえば①がふさわしい。)／△③「チット」ル④／「チッテシ」マツタ (若年女性)
21. (地面一面に) 散っている ①ミ「ン」ナ「チッ」タ／△②「ヨ」ーケ「チット」ル (木を見ても地面を見てもチットルだ。)／△③「チッテシモト」ル／△④「チッテシマツ」ル (若年層)
22. 今にも降りそうだ ①「ハ」ヤテガク「ル」／②フ「テ」ク「ル」／③イマ「ニ」モオ「テ」ク「ル」 (オッテクルは「落ちてくる」)／△④フッテ「キソ」ーヤ／△⑤フリ「ソ」ーヤ／△⑥フル「ミ」タイヤ (言うこともある。若年女性。) *①②③はいかにも方言表現的である。
23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ ①フリ「ソ」ーヤツタ／②フッテ「キソ」ーヤツタ *この場合には必ず「～ソーヤツタ」になって、上記22にあるようなその他の言い方をしないところが興味深い。
24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ ①フ「ト」ツ「タ」 *安定的。
25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていた ①「モー」ヨアケ「マ」エヤツタ／△②「アケソ」ーヤツタ／△③「アケカケト」ツ「タ」 (言わないことはないが、こんなややこしい言い方はあまりしない。①で一番すっきりする。)
26. (来年の今ごろは家を) 建てている (最中) ①タテ「ト」ルサ「イ」チューヤ

／②タテ「ト」ル／③タテ「ト」ルトチュ「ー」ヤ

27. (来年の今ごろは家をすでに) 建てている ①「デキアガット」ル／②「ウ」チガ
「デキ」トル／△③タテ「ト」ル／④タツ「ト」ル *「建てる」という他動
詞を柱にしてその結果態を問題にしている<当然「家を」という格成分を念頭に
おいて>のであるが、「家を建てた」結果は「家が建っている」のであるから、
おのずから「家が」を主語にして「建つ」という自動詞を柱にしたタツトルが選
ばれることにもなるのであろう。
28. (あの家はよく) 磨いてある ①「ミガイタ」ア「ル」／②「ミガイト」ル *若
年層ではミガイテアルとなりやすい。
29. (隣の犬が) 鳴いている ①「ナイト」ル *安定的。
30. (隣の子が) 泣いている ①「ナイト」ル *安定的。
31. (こどもたちが) 喧嘩している ①「ケンカシト」ル (相手がよく知った先生なら
特別な言い方はしない。)／②「ケンカシテル」ル (よく知らない先生の場合。若年
層。)／③「ケンカシテマス」ル (もうひとつ丁寧。)
32. (家に) いるかなあ ①「オ」ルカイ「ナ」ー／②オイ「ナ」ルヤロカ「ナ」ー／
③オイ「ナ」ハルヤロカ「ナ」ー (②③は主語が目上の人の場合。)／④「オ」
ルヤロカ「ナ」ー／⑤「オ」ルカ「ナ」ー (若年層。)
*②オイナル③オйнаハルは中高年層に多い。①の文末詞カイナーも同じ。
33. (○○さん) いるか ① オ「ル」ー↑ (あるいは「オ」ルカ)／②オイ「ナ」ハ
ルカ (大人同士の場合) *イルやイテルは言わない。
34. (ああ) いるよ ①「オ」ル *文末詞はぜ(男)・ニ(男女)・ヨ(共通語)
35. (そういう人も) いるよ ①「オ」ル *イルやイテルは言わない。
36. (あなたは今何を) していたか ①シ「ト」ツ「タ」ンヤ／②「シ」トツ「タ」ン↑
37. (私は今金魚を) 見ていたよ ①「ミ」トツ「タ」 *安定的。
38. (金魚が今にも) 死にそうだ ①「シ」ニソ「ヤ」／②「シ」ニカケ「ト」ル／△③「シ」
ン
デク／④「オ」カシナツ「ト」ル／⑤「シ」ヌ「ン」ヤロカ *シニシニヤはない。
39. (やっぱり金魚は) 死んでいたよ ①シ「ン」ドツ「タ」／△②「シ」ンデシモツ「タ」
40. 読み始めていた ①ヨミカケ「ト」ツ「タ」／△②ヨミハジメ「ト」ツ「タ」／③ヨンドツ
「タ」ンヤ (数頁読み始めているときでも、こう言う。) *①は若年層では
あまり言わない。③が主である。 *この場面でヨミヨツとは言わない。
41. 読み始めたところへ (~た) ①ヨミ「カ」ケ「タ」ト「コ」エ／②ヨミ「カ」カッタ
ト「コ」エ／③ヨミカケ「ト」ツ「タ」ト「コ」イ (ヨミカケルナリなどという回りくどい言
い方はしない。)
42. 着くと同時に~した ①カ「イ」ツテキ「タ」ラ「モ」ー「ス」グ「ニ」／△②コ「コ」エ
ツ「ク」ナリ「カ」カッテキ「タ」 (若年男子も。)／△③ツイ「タ」ト「タ」ンニ (若

年層でも。) / △④ツイ「テ」ス「グ」ニ (これに比べると③の方が瞬間的な意味あいがある。) / ⑤ツイ「タ」ラ (若年層。)

* ツクカツカンカニは、こういうときには適当でない。

43. 着くと同時に～してくれ ①「ム」コ「イ」ッ「タ」ラス「グ」ニ「デン」ワシテク「レ」 / △②ツキ「シ」ダイ (ちょっと丁寧な感じ。ざっくりばらんな言い方でない。)

* 「～ナリ」は、42のような過去時の場面には言うけれども、この43のような未来時の場面では言わない。他方、「～シダイ」はこれとは逆で未来時に用いる。

44. 鳴りつづけている ①ナ「リ」ズメ「ヤ」 (若年層では頻度小。) / △②ナ「リ」ッパナシ (こちらが電話口に出ない時のこと。) / △③「ズ」ッ「ト」ナット「ル」 * ナリズメは、鳴りつづけるという意味も表すが、またあちこちからひっきりなしに電話がかかる、つまり頻度の大きなることをも言う。「ナッテ」バツ「カ」シはまさにこの意味しか表さない。 * ナリツツケトルは言わないことはないが、③ズットナットルの方が自然である。

45. (先生は今何を) しているか ①ナニ「シ」テ「ミ」エマ「ス」 / ②ナニ「シ」テ「オイ」ナ「ハ」ル (この言い方やや少なくなってきた。) / △③ナニ「シ」ト「イ」ナサル (高年女性) / ④ナニ「シ」トン「ノ」あるいはナニ「シ」トン「ノ」デス「カ」 (若年層。近しい先生の場合。) / ⑤ナニ「シ」テル「ン」デス「カ」 (若年層。恩師に言う場合、⑤のような言い方はするが、同じ先生にナニ「シ」トル「ン」デス「カ」。という言い方はしない。) / ⑥ナニ「シ」テイラッシュアイマス「カ」。 (共通語的)

46. 好きだ ①エー「ナ」ー / ②「ス」キヤ * スイトルの言い方はしない。話者K氏は、某古老がスイトルを言っていたというが、筆者には全く初耳である。

47. 見られているのも ①「ミ」トン「ノ」ニ「シ」ラ「ント」 * 受け身の文言での質問を3度して確かめたが、その都度受け身の言い方でなく、この言い方が回答された。共起する格助詞は「に」格よりも「が」格をとりやすいためであろうか。若年層でも、第一答は「ミ」トン「ノ」モ「シ」ラ「ント」であった。 / △②ミ「ラ」レトン「ノ」ニ (受け身の言い方もしないことはない。) / △③ミラレトン「ノ」モ「シ」ラ「ント」 (これもよく言う。)

48. (今、運動会が) ある ①「マ」ッサ「イ」チュー / △②ア「ル」 / ③「ヤ」ット「ル」 * アットルとは言わない。「が」格をとる場合は、どうしても①か②かになる。

49. (降らなくて) よかったよ ①エ「カ」ッ「タ」・ヨ「カ」ッ「タ」 * ヨカトルなどの言い方はない。若年U氏は「ヨ」カッタというアクセント。

50. (先生がこっちへ) 来つつある ①オイ「デ」ル (やや古風。) / △②ミ「エ」ル (若年層もこれを言う。) / ③「キ」ナ「ハ」ル (高年層が言う。) / ④「キ」ヤハル / ⑤<「コ」ッチムイテ>「ゴ」ザル (高年層のことば。) / ⑥ク「ル」 (若年層) * キテヤは「ここにすでに来ておられる」の意味になる。 * 設定のよう

な場面では、補助動詞を使った表現でなく、「来る」という動詞の内包する運動の意義だけで用を足すのである。

51. (犬がこっちへ) 来つつある ①ク「ル(キヨルは関西なまりだ。ここの言い方ではない。) / Δ②「キ「タキタ
52. 似ている ①ヨー「ニート「ル・「ニト「ル / ②ソッ「ク「リヤ
53. (一週間も前から遊びに) 来ている ①「キト「ル * 安定的。
54. (昔から) 苦労していない ①「ク「ロー「シト「ラヘン / ②「ク「ロー「シト「ラン / ③「ク「ロー「シテ「ヘン (若年H氏第一答。①も言うが、古い感じがする。若いものには③が多い。) ④「ク「ロー「シテ「ナイ (若年U氏。) * ④のナイはイナイのイ略ではなく、打ち消しのナイがシテに直接したもの。
55. (今はあまり) 苦労しないている ①イ「マ「ロー「ラ「クヤ / ②「ク「ロー「シト「ランデ (苦労していないから) 「ラ「クヤ / ③「ク「ロー「シテ「ヘンあるいは「シテ「ナイ (若年層。②も言う。) * 「ク「ロー「セ「ント「オ「ル (せずつとおる) も言いはするが、上記54の①②の表現の方がよく馴染むようだ。
56. ～は売っているが、～は売っていない ①ア「ソ「コワ「タバコダケ「ヤ / ②ア「ソ「コワ「タバコダケ「デ、ホカノ「モ「ンワ「ウツ「ラヘン / Δ③「タバコワウツ「ルケド ホカノ「モ「ンワ「ウツ「ラヘン * 若年層では「タバコワウツ「ルケドイ「リョー「ヒン「ウツ「ヘンのように、前部は～トル、後部は～テヘンとなることも多い。
57. (昔からタバコを) 売っている ①ム「カシカラタバコ「バッ「カ「ヤ / ②「ウツ「トル (これが普通。)
58. (今、大売り出しで衣料品を) 売っている ①「ウツ「トル * 安定的。
59. (もう三回) 来ている ①「キト「ル * 安定的。
60. (いつも) 来ている ①ヨー「キト「ル (副詞ヨーはイ「ツ「モともなる。) / ②「キズメニキト「ル / Δ③「キツケト「ル (少ない。若年層では言わない。) * キーツメトルも言わない。
61. (昔はいつも) 来ていた ①「キト「タ / Δ②「キ「ヨッタ (古老のことば。)
62. (前に一度) 行っている ①「イ「タコトア「ル / Δ②「イ「トル (高年・若年とも。) / Δ③「イ「テル (若年層で。)
63. 先に行っておいてほしい ①「イ「テ「アト「カ「ラ「イク > / ②「イ「ト「ッテ「ン。 * ①は「～て置いて」、②は「～ておって」である。しかし、この区別は普段あまり意識されていないようである。この点は老若同じ。
64. 待っていなさい ①マ「リ「ロー / ②マ「ッ「テ「ロー / ③マ「ッ「ナ / Δ④マ「キ「ナ (言わないことはない。) * ①②③は「～ておる」式、④は「～て置く」式であるが、どちらかというとな前者が言いやすいようである。

65. (外に)待たせてあるよ ①「マタシタ「ア「ル／②「マタシト「ル(待たせている) *「てある」式と「テオル」式とが両立している。
66. 食べておいておくれ ①タベトイ「テ「ー／②タベト「キ「ン／③タベ「ト「ケヨ(荒い言い方。)／④タベトキ「ナ／△⑤タベトッ「テ「ー
*この項目では、「～て置いて」式のもの安定である。①～④がそれ。⑤の「～ておいて」式ものは、少なくとも優勢ではない。ただ、両方の言い方を完全には使い分けず併用を許容する点は、上の項目63・64などと同じである。
67. (昔と)違っている ①「ムカシト「ワ「チガウ／②「チゴト「ル／③「チャウ(若年層)／④「チゴテル(若年層)／△⑤「チガット「ル(若年層) *④は「チゴ」の部分は伝統的な西日本方言の語形(ワ行五段動詞ウ音便短呼形)で、「テル」の部分は東京方言などでの語形で、それが違和感なくつながれている。一方⑤では、チガッテ(東日本的)とトル(西日本的)とが合体している。
68. (昔は今のと)違っていた △①「チゴトッ「タ／②「チャッ「タ(若年層)／③「チゴテ「タ(若年層) *老年層では、動詞「違う」を使った回答が得られにくかった。ウ「マ「カッタか「アジナ「カッタかのどちらかに割り切って言うことが多いからだという。しかし若年男性は②が第一答であった。チャッタ「違った」であるが、必ずしも「違った」から直接変化したものとは断じがたく、この語形の成立には、関西系の「チガウカッタ→チャウカッタ(違っていた)」が関与していた可能性も考慮する必要がある。とはいえ、このチャウカッタから直接変化したものとも断じがたいから、チガッタがチャウカッタ式の言い方に刺激されて生まれた新形と考えたいのである。
69. (毎日梅干しを)食べている ①タベ「ト「ル *安定的。
70. (毎朝)している ①「シト「ル *安定的。
71. 気をつけていて(～した) ①「キー「ツケ「トッ「テモ／②「キオ「ツケ「テヤ「ネ「ヤ「ケ「ド「モ／③「キー「ツケ「トッ「タ「ノニ(若年層) *②は「テヤ」敬語で待遇した表現で、「気をつけておいでだけど」くらいな意味。女性らしい言い方。 *「～ていて」というテ止め中止の形は言いにくいようで、テモ・ケド(モ)・ノニなどと接続関係を二極化する表現になりやすい。
72. 行ったまま～ ①「イッ「タ「キリ／②「イッ「タ「ママ(これが一般的。)／△③「イッ「タ「ナリ *「～ナリ」は今や年配の人のことばになっている。
73. ～しながら ①「シゴッテ(古老が昔言っていた。今は全く言わなくなった。)／②「シガテ「ラ(若年層では、ほとんど言わない。)／△③「シーシー(ときにこれを言うこともある。若年層では言わない。)／④「シナガラ／⑤「シモッテ
*⑤を言うと答えたのは筆者の姉(S)であるが、筆者は当地にこの言い方のあることを知らなかった。あるいはここ三四十年間の推移によるものか。ある

いは上記①のシゴツテと関連する事象なのか。

74. ～の途中で～する ①「イクミチデ／△②「イキシナニ（「イキシナニ ヨツテク
く行く途中で寄って行く」のように。後の③に比べてやや古い感じがする。）／
③「イクトチュー「デ／△④「イキガケニ（家を出る直前のニュアンスあり）
*④はこの項目の意味とややずれる。「デガケニデトワガ「カカッテキトタ
というのは、まだ家を出ていない、まさに出ようとしているその時に、の意味で
ある。ただし、「～ガケニ」を「～シナニ」と区別意識なしに使っているふしも
ある。若年層でも、この二形を言うという。
75. ～の途中で～した ①「イクミチデ／②「イクトチュー「デ *「途中で会っ
た」というような偶然事態をいうタ止め文では、74の②「～シナニ」や④「～ガ
ケニ」は言わない。*「イットツテというのは、途中でなくて向うに居ての意
味になるから、この項目では言わない。もっとも、アルイ「トツテとは言う。
76. ～の途中で止めて～した ①ヨン「ド「ルトチュー「デ「ヤメテ／△②ヨミサシ「テ
（若年層ではヨミサシ「デ。） *ヨミカケ「テは、200頁の本なら、その
せいぜい2～30頁ほどまで読んで、の意味。一方ヨミサシ「テならば、100
頁～150頁を読んでいる途中の意味にも言える。
77. ～したばかりだ ①ヨン「ダ「バツ「カ「ヤ／△②ヨンダ「ト「コヤ
78. 無くなっている ①「ノ「ナーナツ「ト「ル（ノ「ナルは古い言い方。）／②ナイ「
ヨ「ナツ／△③ナイ「ヨ「ナーナツ「ト「ル／④「ナクナツ「ル（若年層）
79. 無くなるぞ ①「ノ「ナーナル（古い言い方。）／②ナイ「ヨ「ンナル／△③
ノ「ナツ「シマウ／④「ナクナルあるいは「ナクナツ「シマウ（若年層）
80. 掛けておいた帽子 ①カケ「ト「イタポー「シ／②カケ「トツ「タポーシ *この
両方を共に使う。 *若年U氏は②が第一回答。
81. 並んだ本 ①「ナランド「ルホン（若年層はこれが第一答。）／△②「ナラ「ンダ
「ホ「ン
82. 並べた本 ①「ナラベテ「アル（人の手をかけたという意味あり。）／②「ナラン
ド「ル
83. ～しておこうか ①ヨンドコ「カ あるいはヨンド「コ「カ
84. やってあるか ① ヤツ「アン「ノ／②「シタ「アル「カ *若年層の場合、
「て」助詞はタにならずにテと言うことが多い。
85. 壊している ①コ「ワシト「ル *安定的。
86. 壊れている ①「コワレト「ル *安定的。
87. 壊されている ①「コワサレト「ル（だれが壊したか分からない場合が多い。）
88. のけてある ①「ノケタ「アル *若年層では ドケテ アルが普通。
89. 書き終わった ①カイテ「シ「モタ／△②カキ「ア「ゲタ（文章語的な表現。）／

③カキ「オ」ワッタ／△④カキ「オ」エタ（文章語的。）／⑤カイト「ト」コヤ
*①③をよく言う。カキキッタはあまり言わない。

90. 書いてしまいなさい ①カイト「シ」マエ／②カイト「シ」マイ「ン」（女性）／③カイト「シ」マイナ（①よりもややていねい。）
91. 書いてしまう ①カイト「シ」マウ *安定的。
92. 書いてみた ①カイト「ミ」ヲ *安定的。
93. （孫は今）入院している ①「ニューインシト」ル *これをていねいに言う場合は、「～シテマス」をよく言い、「～シトリマス」は少ない。
94. （弟も今）入院しているようだ ①「ニューインシトルラシ」ー／△②「ニューインシト」ル「ミ」ヲ「タイ」ナ
95. （きっと）よくなるよ ①「ヨ」コー「ナ」ル（若年層ではこれも言うし、またヨクナルも言う。）／△②「ヨ」コー「ナ」ッテ「ク」／△③「ヨ」コー「ナ」ッ「テ」ク「ル」（②の方はごく親しい人に対して言い、少し丁寧にやさしく言う場合には③の言い方をするような気がする。） *「ていく」の方は放っておいても自然によくなる、「てくる」の方は病状が重い場合のようだと若年女性に説明する。
96. （だんだん）よくなるよ ①ダン「ダ」ン「ヨ」コー「ナ」ッ「テ」ク「ル」（温かみのある言い方。この方が言いやすい。）／②「ヨ」コー「ナ」ッテ「ク」（あとは知らないというような突き放した言い方。）
97. 歳とるとね、 ①「ト」シト「ッ」テ「ク」ル「ト」／②「ト」シク「ッ」テ「ク」ル「ト」／△③「ト」シト「ッ」テ「ク」ル *どちらかといえば①「～てくると」が言いやすく、③「～ていくと」は言いにくいようである。
98. なおらなくなるよ ①「ナオランヨ」コー「ナ」ッ「テ」ク「ル」／②「ナオ」ラヘン「ヨ」コー「ナ」ッ「テ」ク「ル」／△③「ナオランヨ」コー「ナ」ッテ「ク」 *ここでも「～てくる」が言いやすい。
99. (1)（犬が）怪我したので ①「シ」ヲ「タ」デ
(2)（こどもが）怪我したので ①「シ」ヲ「タ」デ
(3)（お父さんが）怪我したので ①「シ」ヲ「タ」デ
(4)（雨が）降ってきたので ①「キ」ヲ「タ」デ
*若年層では、待遇表現としての「～ヨック」を(1)～(4)のすべてにわたって言う者がいないわけではない。これに対して、高年層ではだれも言わない。
100. (1)「雨が降りつつある」という言い方 *高年女性と若年女性は、「ぼつぼつ降り始めた」状態（始動態）も、「すでに盛んに降り続けている、降っている最中である」（進行態）も共に意味すると言い、高年男性の二氏は、「降っている最中」（進行態）の意味にしか言わないと断言する。そして、若年男性は将然態ないし始動態であって、進行態ではないという。

(2)「貯金が増えつつある」という場合 *「すでに現にどんどん増えている」状態（進行態）を表す。この項目では選択肢を将然態か進行態かの二つにしたため、進行態に回答が固定した。若年男性も、「どんどん増えている」のではないものの、多少は増えた状態を表すという。

(3)「貯金を増やしつつある」という場合 *上の(1)と同じく、「増やし始めた」（始動態）と「すでに現にかなり増やしている最中」（進行態）とを答えたのは高年女性と若年女性で、高年男子K・O両氏は進行態のみだと断言し、若年男性は増やす計画中の段階だと明言する。

*高年層と若年層とにある種の年層差が認められるが、それは単純な対立的事態ではなく、同じ高年層の3氏（僅かに3歳の隔たりがあるだけ）の中で、一人だけは「つつある」の概念に違いが見られ、また若年層でも割れている。ではあるが、流れとしては、進行態から始動態へ、さらに将然態へと意味用法を拡充してきたのかと想像するが、個人的な側面もありそうである。

Ⅲ. 総括（まとめ）

(1) 当方言アスペクトの特色

人の存在を言う動詞はオルである。それと相呼応して「～ておる」のトルの活躍がめざましい。進行・既然（存在）・恒然（常時）反復・習慣・経験済など幅広い意味作用をする。ほかの言い方がない（少ない）安定した回答は、大部分がこのトルである。当然、その過去の過去はトックである。

一方、動詞オルが助詞「て」を介せず補助動詞として用いられる時～ヨルとなるが、これには進行とか将然とかの意味作用は全くなく、ただ過去の反復的事態を回想する意味合いでのみ高年層に僅かに行われる。ただし、それも項目1のように動詞に関わる場合であって、項目2「おもしろい」のごとき形容詞に関わる場合はもはやほとんど言わなくなっている。この事態は、かつては当地にも～ヨルが進行態や将然態の意味にも用いられていた蓋然性を推察させるが、現状を見るかぎりでは、進行態と既然（存在）態とを「～ヨル」と「～トル」とで言い分けることをしない、一元的なアスペクトである。この点において、形こそ違え「～テル」一元の共通語アスペクトと相通じるものがある。

(2) その他の特記事項

「ある」動詞による「～テアル」「～テアック」は、結果態（処置）の意味でのみ行われ（例、書イテアル）、既然（存在）態（例、消エタアック）としては行われない。

各種の言い方を許す（不安定な回答の）項目には、将然態・始動態などのほか、「近づき・遠のき」などともいわれる変移態その他がある。

共通語の定着のしかたについて。項目6「～テシマッテ」、項目10「キエテル」（ただし「キエテタ」という形は言わない。）、項目31親疎によってトルとテルとを使い分けるなどなど。若年層でのことである。 （さとう とらお 皇学館大学）